

～ **業界初** 文部科学省「英語ノート[デジタル版]」対応の活用・事例集 ～

『「英語ノート」対応 電子黒板活用ガイドブック』刊行 ネイティブ教師不在でも安心。イキイキ楽しい英語の授業が可能に！

教育出版の株式会社旺文社(本社:東京都新宿区、代表取締役赤尾文夫)は、2009年3月に文部科学省より全国公立小学校に配布された「英語ノート[デジタル版]」に対応した、『小学校外国語活動 「英語ノート」対応 電子黒板活用ガイドブック』を、7月24日に刊行します。

2011年度の「外国語活動必修化」が迫る中、小学校の教育現場では、「指導内容・指導方法」に関する強い不安が残っています。(※旺文社英語教育研究室実施「小学校の英語活動に関するアンケート」より。次頁データをご参照ください。)

「英語ノート[デジタル版]」は、2011年度の外国語活動必修化に向け文部科学省が作成したもので、電子黒板を利用することで、より効果的に活用することができます。電子黒板は、今年4月に文部科学省より発表された学校ICT(情報通信技術)化に向けた方針の中で、全国の公立小中学校に一台ずつ配備すると発表されており、今後教育現場での活用が急速に進むことが予想されます。

そこで旺文社は、教育現場の不安を軽減し、先生方がスムーズ且つ効果的に電子黒板を活用した授業を行えるよう、指導方法や指導事例を提供する書籍を刊行することとなりました。『「英語ノート[デジタル版]」対応のガイドブック・事例集の刊行は、本書が初めてとなります。

※「英語ノート」とは:外国語活動必修化に向けて文部科学省が作成したテキスト。

※「英語ノート[デジタル版]」とは:すでに紙の「英語ノート」とともに全国の小学校に配布されているもので、パソコンのソフトウェアのこと。

基本的にパソコンで利用するもので、プロジェクターを使用して投影することも可能だが、電子黒板で投影すれば、先生がパソコンに向かう必要がなく、従来の黒板に板書する感覚で授業を行うことができる。

※「電子黒板」とは:パソコン連動の黒板でデジタル教材を黒板に映し出し、画面に触れることで操作したり、操作した内容を保存したりすることができる。

■ 『「英語ノート」対応 電子黒板活用ガイドブック』概要



書名	小学校外国語活動 「英語ノート」対応 電子黒板活用ガイドブック
著者	菅 正隆 (大阪樟蔭女子大学教授・前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)
(共著)	梅本龍多 (関西大学初等部開設準備委員特別任用教諭・元大阪府河内長野市立高向小学校教諭)
判型	B5判、128ページ、オールカラー
刊行	2009年7月24日
定価	2,205円(税込)
対象	全国の自治体、小学校の教員・英語活動指導者、中学校の英語教員、小学校の英語教育に関わる大学教員・大学生

【特長】

- (1)文部科学省制作「英語ノート[デジタル版]」対応の電子黒板活用ガイドブックの決定版
 - －電子黒板の基本操作から効果的な使い方がこの1冊でわかる
 - －「英語ノート[デジタル版]」を使った事例を豊富に掲載
 - －小学校の英語活動だけでなく、中学の英語科、小学校の算数科などへの活用方法も紹介
- (2)電子黒板・「英語ノート」を使った授業経験の豊富な教師陣による執筆
 - －前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官である菅正隆氏
 - －研究開発校13年勤務、「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」制作協力者である梅本龍多氏

【目次】

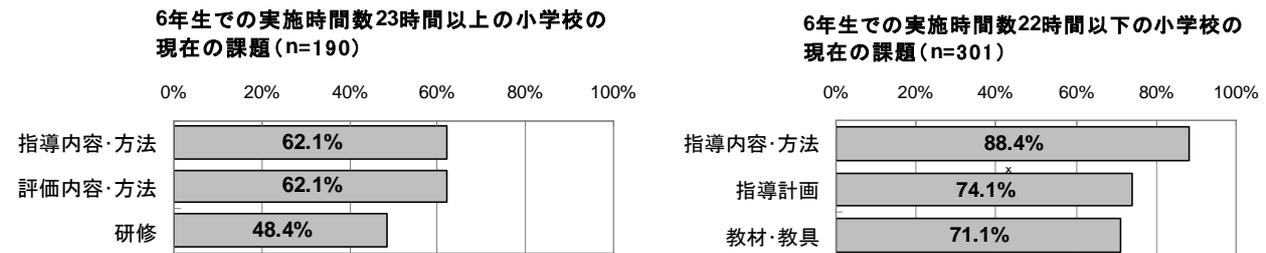
<p>UNIT 1 [デジタル版]を使う前に</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 外国語活動導入と電子黒板 2 電子黒板を導入する効果 3 電子黒板のできること 4 電子黒板の種類 5 電子黒板を使うために必要な準備 <p>UNIT 2 まずは！[デジタル版]を動かしてみよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「英語ノート[デジタル版]」の全体構成 2 インストールとアンインストール 3 起動と終了 4 「英語ノート[デジタル版]」の基本操作 5 カンタン基本操作だけで授業を進めよう 	<p>UNIT 3 さっそく！[デジタル版]で10倍楽しい授業をしよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 書き込み機能を効果的に使った活動例 2 拡大機能を効果的に使った活動例 3 記録・再生機能を効果的に使った活動例 <p>UNIT 4 さらに！オリジナル教材で授業を展開してみよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 静止画取り込み機能を効果的に使った活動例 2 動画取り込み機能を効果的に使った活動例 ● 「英語ノート」Lesson 別機能活用事例一覧 <p>UNIT 5 こんなにある！英語活動以外での電子黒板活用法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員研修でも活用しよう 2 中学の英語科でも活用しよう 3 他教科でも活用しよう
---	---

《参考データ》 2008年8月～9月 旺文社英語教育研究室実施「小学校の英語活動に関するアンケート」より

「英語活動を行う中で、貴校で現在問題となっていることはありますか」の回答は、英語活動の実施時間数が多い小学校では「指導内容・方法に関すること」、「評価内容・方法に関すること」が最も多く(ともに62.1%)、次いで「研修に関すること(48.4%)」であったのに対し、実施時間数の少ない小学校では、「指導内容・方法に関すること(88.4%)」が最も課題とされていることは変わらないが、次いで「指導計画に関すること(74.1%)」、「教材・教具に関すること(71.1%)」となっている。

英語活動の実施時間数に関わらず、一番の問題は「指導内容・方法に関すること」であることがわかる。

英語活動実施時間数別の現在の課題(上位3つ)



※詳しいアンケート結果は右記の URL よりダウンロード可能です。→ <http://www.obunsha.co.jp/files/document/090217.pdf>

《旺文社運営“先生応援サイト”紹介》



<http://hapilab.obunsha.co.jp>

英語教材の無料提供、英語教育の指導案や指導法などの情報発信により、現場の先生を応援するサイトです。

そのまま使用できる高品質な教材や、クラスルーム・イングリッシュの音声が無料でダウンロードできます。また、先生自身の英語力・指導力をアップするための、参考資料や指導方法・セミナー情報も紹介。忙しい先生、英語が不安な先生をサポートします。

以上

【会社概要】

社名：株式会社 旺文社
 代表者：代表取締役 赤尾 文夫
 設立：1931年10月1日
 本社：〒162-8680 東京都新宿区横寺町55 TEL：03-3266-6400
 事業内容：教育・情報をメインとした総合出版と事業
 URL：<http://www.obunsha.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社旺文社 広報担当：山縣(ヤマガタ)・三澤(ミサワ)
 TEL:03-3266-6495 FAX:03-3266-6849 E-mail：pr@obunsha.co.jp